



博多あん通信

発行元  
博多あん(安全)・あん(安心)リーダー会  
連絡先  
〒812-0882  
福岡市博多区麦野5丁目22番6-505号  
代表幹事 小森 勝輝

2017年(平成29年)

4月1日号  
<No.31>

## 「避難所サポートチーム・福岡」養成講座記念講演会

福岡市は昨年の熊本地震での経験を踏まえ、被災者の避難生活を支え、被災地での避難所運営をサポートするボランティアチーム「避難所サポートチーム・福岡」の結成をすることになり、リーダー会に協力の要請がありました。今後、リーダー会会員限定で養成講座が開講されますが、その開講記念講演が4月10日(月)福岡市役所に於いて開催されました。

第1部では、福岡市長高島宗一郎氏が「WITH THE KYUSHU 九州を防災先進地域へ」との題名で、福岡市の災害に対する取り組みや姿勢を熱く語られました。

「九州は災害の多い地域であるからこそ防災先進地域にしていく必要がある」という思いで、過去の災害を分析、対応を検討し、熊本地震では「自己完結型支援」が実行されました。

これは、政令市である福岡市が物資やボランティアスタッフの受付を行い、現地のニーズにあわせて必要な場所に必要数を配置していくことで、被災地に負担をかけない支援です。どこで何がどのくらい不足しているかというタテの情報の集約については、ICT(通信技術を使ったコミュニケーション)を活用することで、瞬時に携帯などで状況を把握することができ、職員さん同士のヨコの情報収集については、SNS(Facebook等)を活用することで解決したとのことでした。

自治体自体も被災していることを考えると「自己完結型支援」が効果的で、また自治体を主体とした避難所運営よりも、地域住民の方に自主的に避難所運営を行ってもらう方がスピーディかつ確かな運営につながる事が分かりました。

第2部では、復興庁復興推進参与でダイバーシティ研究所代表理事の田村太郎氏から「被災地で求められる災害対応力」と題して、避難生活での被害拡大をいかに防ぐかについての講演がありました。

具体的には、要援護者の避難が間に合わない現状や多様な住民が避難するには配慮に欠ける避難所が多いこと、仮設住宅でのコミュニティから排除される被災者が発生すること、立場の弱い人ほど避難生活が長期化し被害が拡大したことがあったなど、東日本大震災以降の災害時対応における主な課題についての説明がありました。

これからの災害時対応に向けて、避難生活で被害を拡大しないために必要な3つの力として、高齢化率50%でも最初の1週間を乗り切れる「避難所力」、避難所の全体を把握し適正にニーズマッチングできる「アセスメント力」、実践的で具体的な訓練の実施と支援人材の育成による「広域連携力」が必要とのことでした。

今後は、今までの「防災」の考え方を根本から変える必要があり、訓練を繰り返し行い変化する課題に気付いて改善を図る必要があること。また、普段の生活の中に防災の視点をさりげなく取り入れる必要があることを述べられ、避難生活で被害を拡大させない、避難所で誰も死なせないことが、田村さんから我々に与えられた最大のミッションです。(広報部長 松本 一郎)



## 第4回 あんぜん・あんしんフェア ～親子で楽しくぼうさい体験～

あんぜん・あんしんフェアが、3月5日(日)東区のイオンモール香椎浜において開催されました。

今年は晴天に恵まれ、外で開催された警察、消防、自衛隊の車両展示や、アマミズタメルンジャーによるショーなどに多くの観客が訪れていました。

一方、モール内のイベントも自衛隊の駐屯地の売店でしか販売していないグッズの販売や、福岡県消防防災課の災害に関するクイズなどに人だかりができました。

リーダー会のブースでは、非常持ち出し品ゲーム、防災紙芝居、ぬり絵、防災腹話術を実施し、紙芝居や腹話術人形のさくらちゃんの活躍で多くの親子が楽しんでいました。

4回目の今年は、スタンプラリー終了者が過去最高の480名を数え、またイオンモール香椎浜と実行委員会の連携もスムーズで準備から撤収まで無事終了することができました。

(参加会員 24名)

(事務局長 平山 光典)



## 2017年!! 防災どんたく「みんなで防災」in 新天町

防災どんたくのイベントの一環として、新天町で行う活動も今年で7回目です。

ロープワーク、災害非常持ち出し袋、防災紙芝居・腹話術、心肺蘇生、液状化現象の実演、災害メール・情報の取り方等、各コーナーを回りスタンプを集める体験型啓発活動を行いました。今回は新たに気象予報士にも参加していただき、街頭でのミニ出前講座も行いました。

福岡西方沖地震より12年という月日がもたらす結果なのか、熊本地震から1年も経たないのに道行く人たちの反応は例年より鈍く、スタンプラリー参加者は70名程度(例年100名超)と関心の低さが気になりました。

しかし、リーダー会・福岡管区気象台・福岡応急手当普及の会・防災危機管理課・気象予報士の方々と共に、同じ視点で取り組む減災活動は、継続性が必要だと改めて強く感じました。

地味な活動ですが、来年も元気に楽しく共に学びながら、多くの人に減災を広めていきたいと思えます。

(参加会員 30名、関係団体参加者 15名 計 45名程)

(代表幹事 小森 勝輝)



## 九州大学 大学院セミナーで DIG

2月3日(金) 箱崎キャンパスで大学院生9名を相手にDIGを実施しました。13時から5時間10分(3コマ)の長〜い時間をかけて充実の内容でした。

1コマ目は「防災マップ」作り、2コマ目はシュミレーション「地震に関する初動対応のイメージ」を考えます。そして3コマ目は「災害に強いまちづくり」を考える。1コマ、2コマで作った災害マップや初期行動を基に、具体的な対策と災害に強いまち、住みやすいまちをどのようにして作って行くか考えてもらいました。

学生さん達は、自分たちが住んでいる所を知る事ができ、いざという時何をすべきか、災害に強いまちとは何か?を考えるよい機会になったと思いますし、今後の人生に活かして頂ければ、と思いました。



(博多支部 坂之下 照雄)

## 大雨防災ワークショップを開催 ~城南支部 研修会~

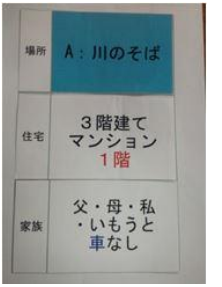
一昨年は鬼怒川の決壊により常総市で広域水害が発生し、昨年8月31日には台風10号に伴う大雨で、岩手県岩泉町の高齢者グループホームで9名の方が洪水で亡くなる被害が発生し、防災に携わる者としてとても残念な思いをしました。

そこで、気象予報士の永田健太郎氏(他2名の気象予報士)を講師に迎え、1月21日(土)別府公民館にて、「大雨防災ワークショップ」を開催しました。

「大雨災害から身を守るためには」をテーマに①地域の災害リスクを知る(居住地のハザードマップと現地を見る)、②災害から身を守るための知識を持つ(大雨の際に防災気象情報が発信される状況と流れを理解し情報を得る手段を確保しておく)について学びました。

終了後には場所を移して懇親会を開催、城南支部のメンバーにとって有意義な支部研修会になりました。

(城南支部 浦野 正幸)



## 南区版 HUG ~三宅校区~

3月11日(土)南区三宅校区にて防災講座を開催しました。三宅校区からは64名、南支部からは12名が出席し、共創による地域アドバイザー事業で「南区版 HUG」を行いました。

「南区版 HUG」とは、①従来の HUG カードから100枚を選出し、避難者名を出席者に馴染みのある南区の町名に変えたカードを使用します。②福岡市の「避難所運営の手引き」に基づきリストを製作しながらゲームをします。③枚数を減らした事により時間に余裕が出来るため、考え話し合いながら進めます。

事前に勉強会を行い内容を検討し、今回で2度目となる南区版 HUG も無事に終了。これからも避難所運営をわかりやすくお知らせできるよう学んでまいります。

(南支部 菅原 佳子)



## トピックス ~これからの活動にご興味がある方は事務局までご連絡ください~

### 各種講座活動結果

- ・ 出前講座：実施講座数 26回(16回増) 参加者 123名 参加人数 1064名
- ・ 地域活動アドバイザー：実施講座数 29回(2回増) 参加者 164名 参加人数 2449名
- ・ 防災教育アドバイザー：実施講座数 8回(1回増) 参加者 19名 参加人数 954名
- ・ 単独事業：実施講座数 21回(13回増) 参加者 162名 参加人数 3225名

### 研修会

12月17日(土)「災害から自分の命と財産を守る方法」  
福岡大学建築工学科 教授 古賀一八先生

### 福岡市消防出初式

1月7日(土) 会場 マリンメッセ福岡 会員34名 隊列行進参加

### 平成29年度定期総会

日時 5月21日(日) 14:00~17:00

場所 福岡市NPO・ボランティア交流センター セミナールーム

### 福岡市市民総合防災訓練 各支部対応

東区	9月9日(土) 10:00~12:00	青葉中学校
博多区	11月11日(土) 10:00~12:00	三築小学校
中央区	11月25日(土) 10:00~16:00	九電記念体育館
南区	6月10日(土) 10:00~12:00	老司小学校
城南区	10月7日(土) 10:00~12:00	堤丘小学校
早良区	5月21日(土) 10:00~12:00	福岡歯科大学(今年のメイン会場)
西区	10月で調整中	



(事務局長 平山 光典)

## ダンボールベッド講習会 ~in東区~

松島校区と照葉校区から、防災研修として段ボールベッド及び簡易トイレの作成を実践したいと要望が寄せられました。どちらの校区も12月にマリンメッセで行われた防災訓練を、自主防災関係者が見学され、自分の校区に取り入れたいとお話でした。

松島校区は、ベッドとトイレの作成指導を町内会長にさせたいとのご意向でしたので、事前に勉強会を実施し、当日の運営及び訓練を町内会長さんが行い、私たちは運営のサポート役を務めました。

照葉校区は、避難誘導訓練終了後にベッド及びトイレの作成要領の説明をし、一緒に作成の手ほどきをする中で感心もされたり、簡単に出来ることに驚きと納得をいただいた様子でした。両校区とも、自主防災会が積極的に動いておられ、防災意識の浸透に活躍されていました。

(東支部 城下 邦芳)



**編集後記** 今年度も皆様のご協力をいただきまして、会報誌の発行を行うことができました。今後も皆様に興味を持っていただける記事を掲載していきたいと考えております。掲載記事に関してのご要望、ご提案等がございましたら、所属支部の広報部員にご連絡下さい。また、ホームページの運営についてもアドバイスやご意見お待ちしております。 広報部長 松本 一郎